

第 14 回遭難防止・安全教育担当者会議報告（担当理事 尾手）

6月17日（日）9：30～12：00 大宮・高鼻コミュニティセンタ - にて行われました。

参加団体出席者：三郷山の会（八木原健一、金子富江）、わらび山の会（伊藤正勝）

埜歩歩富士見山の会（青木正）、上福岡山なみハイキングクラブ（古畑秋夫）

ハイジアルペンクラブ（木阪康弘）、ピスタ - リ（染谷久士）、北本山の会（千葉一郎）

富士見市峠山の会（宮川修一）、新座山の会（井上順司）、浦和山の会（水谷克明）

日和田アルパインクラブ（甲斐嘉紘）、熊谷トレッキング同人（木村哲也）

大宮労山（小島満、谷脇京子） 理事長：武笠真次 副理事長：徳重博文、尾手利雪

理事：佐藤久子、木村哲也、若木由和、小松勝浩、長谷川貞子、水谷克明

13 団体 15 名（内理事 2 名） 理事 9 名 計 22 名

1. 春山遭難事故の検討

5月4日午後から吹雪になり午後4時には氷点下2度まで低下。

寒気を伴った気圧の谷が通過して天候が急変した。

そのなかでの遭難事故であった。

トムラウシの遭難事故があったにもかかわらずいずれも低体温症での死亡であった。

春山は天候が急変すると一気に冬山へ逆戻り、計画を立てる段階でどこの地点で進退を見極めるか、難しいかもしれないが登山者は気象の知識と判断力を身につけて安全な登山を目指してほしいと思す。

1) 北アルプスでの8名死亡（白馬岳6名、涸沢岳1名、爺ヶ岳1名）

2) 槍ヶ岳での落雷によるけが1名

埼玉県連でその時期に入山していたパ - ティ - は大宮労山の劔岳、埜歩歩富士見山の会の燕岳～常念岳、三郷山の会の槍ヶ岳、熊谷トレッキングの槍ヶ岳

2. ヒヤリハットの事例

1) 南部ブロック（三郷山の会、わらび山の会、あすなる山岳会）でのスノ - シュ - 交流バスハイキングでのヒヤリハット報告書から伊藤ブロック長から説明報告がありました。

日時：平成24年2月12日

天候：雪 視界不良

場所：裏磐梯高原・猫魔スキ - 場～雄国山
コ - ス

山行人数：4 団体 28 名

状況：2 班編成でスキ - トレ - ルに入り、誤りに気が付き 班は引き返し正規ル - トに戻ったが 班はそのまま急斜面を下り進む（この時点でパ - ティ分離）

最終的には 班合流したが雪山でのヒヤリハットであった。



- 原因 1. ル - ト確認、コンパスの使用の怠慢
2. リーダ - 、メンバ - 構成役割の不備
3. 悪天候でのあせり
4. ル - ト経験があるとの油断
5. 迷った時には引返すの鉄則がまもられていない。
3. 救助隊より各会へのセルフレスキュー - のアピ - ル (若木事務局長、徳重救助隊長)
- 1) 救助隊事務局長より救助隊 2012 年度活動方針 の実施に向けての説明
「机上・実技」を通じて山のピンチから抜け出すためにもセルフレスキュー - とチ - ムレスキュー - を普及する。
 - 2) 10 月 20 日 (机上) 21 日 (実技)
 - 3) 水谷氏よりセルフレスキュー - の重要性、大切さの説明。
 - 4) 会レベルに対応したセルフレスキュー - が必要である。
 - 5) 実技場所での設定、案を救助隊で提示。
 - 6) 救助隊よりテキストを作成。
 - 7) 各会の要望を聞く為にアンケートを発信する。
4. その他
- 1) 登山時報 6 月号「六甲山・西山谷での行方不明 死亡事故は、私たちに何を問いかけるか」
計画書と単独登山からの文章を読んで下さい。
 - 2) 埼玉県内の平成 23 年の遭難件数 39 件、遭難者数 52 人 (内死亡事故 2 人)



ヒヤリハット報告書は適宜、遭難防止・安全教育委員会まで提出して頂きたいと思います。

2012.06.28 遭難防止・安全教育委員会